掲示板　ご案内と報告

平成２３年度企画展のご案内

【両津郷土博物館】

◎新指定文化財公開展　佐渡国絵図（さどくにえず）と佐渡金銀山絵巻

期間　平成 23 年７月 19 日（火）～９月 30 日（金）

場所　両津郷土博物館

料金　大人 300 円、小人 100 円（通常の入館料）

平成 23 年３月に「佐渡国絵図」が新潟県の指定文化財となりました。天和年間（1681 ～ 1684）に制作されたこの絵図は佐渡を描いた公式の絵図としては最古級のものです。今回の指定を機に、江戸時代の鉱山絵巻等も併せて展示し、相川金銀山を中心とした当時の佐渡の状況に思いを馳せていただきたいと考えています。

◎新寄贈資料公開展

期間　平成２３年 10 月～ 12 月

◎ジオパーク展

期間　平成 24 年１月～平成 24 年３月

【相川郷土博物館・新穂歴史民俗資料館】

◎裂き織り作品展

２会場で個別に開催します。

期間　平成 23 年秋頃

【佐渡植物園】

◎佐渡植物園展示会

会場：クアテルメ佐渡（佐渡市羽茂飯岡）

1　大文字草展

平成 23 年 10 月 22 日（土）・２３日（日）

2　雪割草展

平成 24 年３月 24 日（土）・25 日（日）

新寄託資料紹介

空也上人立像（くうやしょうにんりつぞう）

新穂長畝観音院（ながうねかんのんいん）の空也上人立像は、室町時代後期の作と推定されます。カツラの一木造で、像高は 62㎝あります。観音院は真言宗の寺院であり、『佐渡国寺社境内案内帳』では、弘仁元 (810) 年の開基と伝えられています。天正 17(1589) 年の上杉景勝による佐渡征伐により、天台宗から真言宗に改宗を余儀なくされました。本像は旧本尊として観音院に安置されていた阿弥陀三尊立像とともに、天台宗時代の名残を今に伝える貴重な像です。

傷みが激しい部分もありましたが、近年檀家の方々の努力で見事修復され、平成 23 年２月に寄託を受けました。

佐藤利夫文庫

佐藤利夫氏（相川在住）から蔵書と調査資料、記録写真を一括寄贈いただきました。佐藤氏は地理の教員として佐渡各地の高校で長く教鞭を執られました。佐渡各地の歴史や民俗を調査研究されましたが、その成果は『佐渡相川の歴史』や『新潟県史』をはじめとする多くの著書となって刊行されています。

佐藤氏の調査資料には昭和 30 年代にさかのぼるものもあり、既に 50 年を経た今日、昭和の歴史資料として貴重なものです。

※寄託　市民の方々がお持ちの次の世代に伝え残すべき絵画、工芸品、歴史資料、考古学資料、民俗資料などを市の博物館施設でお預かりし、適正な保存管理のもと維持を図るとともに、市民のみなさまに広く紹介し、文化資産を知っていただこうとするものです。

編集後記

平成 23 年度最初の佐渡学センターだよりを発刊します。佐渡学センターの業務内容や組織の見直しで、ジオパーク関係部門が「ジオパーク推進室」として独立しました。場所は同じ両津郷土博物館内にあり、佐渡センターと連携協力しながら業務の推進をしております。これまで佐渡学センターだよりでは、ジオパーク関係の内容を含めておりましたが、この号より佐渡学センター独自の内容になっております。（池田雄彦）

発行　佐渡学センター（佐渡市教育委員会　社会教育課）
〒 952-0021　新潟県佐渡市秋津 1596　両津郷土博物館内　電話　（0259）23-2100　　FAX　（0259）23-4820
ホームページ　http://www.city.sado.niigata.jp/sadobunka/denbun/

佐渡学センターだより

佐渡学センター
（佐渡市教育委員会社会教育課）
2011 年７月１日（金）
第４号

感動に出会える旅を

佐渡学センター　所長　渡　邉　剛　忠

定年退職を迎えた年、カナダに旅をした。アメリカ東海岸のナイアガラの滝をスタートに、飛行機を乗り継いでカナダの主要都市を訪れる横断の旅であった。念願だったロッキー山脈を目の当たりにし、自然の雄大な景観に圧倒され、感動の連続であった。連なる山脈や大地の地層の重なり、温暖化のために年々後退しているという氷河の現状にも出会うことができた。カナダは、景観や環境の保全に多くの配慮がなされていて、自然の景観がすばらしい国であった。なかでも「芝生条例」や「干しもの条例」(条例の名称は定かでない) のように市民の協働意識涵養のため、きめ細かな条例が制定されているとのことで、なるほどと思った。市街地の各家は道路から一定の距離をおき、隣の家とは外観が違うように建築するよう定められている。道路と家の間には芝生を植えて常にきれいに刈り込みをしておくこと、荒らすと市役所の職員がきて、きれいに整備をする、そのためにかかった経費は後日家主に請求されるとのことであった。また、市内のどこを走っても、マンションやアパートの窓やベランダに干し物が見あたらない。カナダは年間を通して湿度が低く、家の中で洗濯物を乾かすことができるので、条例ができても苦にならないとのことであった。ちなみに、違反をすれば罰金が科せられるとのことである。また、どの市街地や公園も、よく整備されていてとても美しい。オレンジ色のベストを着用し、専用の車でてきぱきと公衆トイレの清掃をしている若者によく出会った。ガイドの説明では、誇りを持って環境の保全、整備にあたっている市の職員とのことであった。

佐渡市も世界に発信する事業が具体化している。金と産業遺産の「世界文化遺産」、このたび我が国では初めて認定されたトキと暮す里づくり認証米の「世界農業遺産（ジアス)」、そして人びとの暮らしと大きく関わる大地の公園づくりの「世界ジオパーク」の推進である。いずれも、島の自然や先人が築いてきた歴史・文化と人々の暮らしがテーマとなっている。

５月、文化審議会は、西三川砂金山の笹川集落を中心にして砂金採掘で形成された地形や関連遺産と農山村景観を、新潟県では初めての重要文化的景観として、高木文部科学相に答申した。大佐渡の杉の天然林や大野亀に群生するとびしまかんぞう、トレッキングコースに見られる可憐な花々等佐渡の多様な自然や文化的景観が注目されている。佐渡から世界に発信するそれぞれの事業やそれに携わる関係者が互いに有機的につながり、知恵を出し合うことによって、佐渡に旅する皆さんがすばらしい多くの感動に出会えるような地域づくり、環境づくりに努めたいものである。

写真だより

吹上海岸石切場跡（ふきあげがいがんいしきりばあと）（史跡　佐渡金銀山遺跡）

吹上海岸石切場跡は、相川市街地の北、海岸段丘崖下の海岸部に立地する鉱山用石磨（いしうす）の石材切り出し場です。近世から近代にかけて、長期にわたり石材の採掘が行われ、海岸線に沿って露出する岩場に、石材を切り出した矢穴跡やのみ跡などの痕跡が多数残されています。石質は球顆流紋岩（きゅうかりゅうもんがん）で、主に鉱山用上磨（うわうす）に利用されました。

佐渡植物園の紹介

佐渡植物園は昭和２３年４月に度津神社の境内に創設されました。皆様もご存じのとおり、佐渡島は北緯３８度線が通り、高緯度にもかかわらず潮流の影響によって気候は温暖で雨量も多いです。一年間の平均気温は、１３℃～１４℃と寒暖の差が少なく、多くの植物が繁茂し、自生種が極めて多く、日本列島の縮図的な植物分布となっています。当園は、以下の事業趣旨として園内を公開しています。

① 佐渡島の植物分布の特異性・多様性を短時間・短距離で実感できるようにするため佐渡島内に自生している植物を収集・植栽・展示して研究の資料として提供する。

② 青少年の生涯学習の場としての植物園を提供する。

③ 文化的・学術的資料を提供し、植物に親しむ場を提供する。

面積約６０，０００㎡の自然林を含む園内は、次の１２ゾーンに分かれ、温室もあります。各ゾーンには佐渡の代表的な植物(自生種･栽培種)を植栽展示しており、園内の散策道を歩きながら、それぞれの時季の姿を見ることができます。

１．佐渡の照葉樹林　　２．高木と花木園
３．佐渡の代表的山野草園　　４．海浜植物園
５．ロックガーデン　　６．つつじ園
７．ツバキ園　　８．水生植物園
９．ミズバショウ園　１０・スギ林とシダ植物園
１１．落葉広葉樹と里山の山野草園　１２．花菖蒲園

また来館者に四季を感じていただくため、当園では隣接している温泉施設（クアテルメ佐渡）を会場に、春の山野草展（５月）・ウチョウラン展（７月）・大文字草展（１０月）・雪割草展（３月）を開催しています。展覧会ではありませんが、１２ゾーンの一つ花菖蒲園（昭和４７年に佐渡植物園２０周年記念事業として明治神宮から分けていただいた花菖蒲の子孫たちです。）は６月下旬～７月上旬が見ごろです。

新指定文化財の紹介

1　国指定史跡に「鶴子銀山」が追加指定されました

「鶴子銀山」が、平成 23 年２月７日、記念物･史跡「佐渡金銀山遺跡」に追加指定を受けました。併せて「佐渡金山遺跡」から「佐渡金銀山遺跡」に名称が変更されました。

鶴子銀山

天文 11 年（1542）から昭和 21 年（1946）まで稼働した銀山で、相川金銀山が開発されるまで佐渡最大の鉱山で、主に銀・銅を産出した。鶴子沢・屏風沢・仕出喜沢などの沢や尾根筋に、大規模な露頭掘り跡や佐渡で初めての坑道掘りによる間歩などの採掘跡が広範囲に分布します。石見銀山から灰吹法と呼ばれる精錬技術や、文禄４年（1595）には、横相と呼ばれる坑道掘りの技法が伝えられたと考えられ、銀の産出量が急増しました。なお、上杉氏の佐渡侵攻も鶴子など佐渡の金銀山掌握が目的であったといわれています。

2　佐渡市所蔵「佐渡国絵図」が、県指定を受けました

平成 23 年３月 22 日、「佐渡国絵図」（両津郷土博物館蔵）が新潟県の有形文化財歴史資料に指定されました。

佐渡国絵図

制作年代は天和年間（1681 ～ 1684 年）前後と推測され、江戸時代の公式絵図としては初期のものと思われます。絵図は佐渡島の村名を三郡（雑太郡・羽茂郡・加茂郡）に色分けしてあり､街道や口屋（番所）が描かれ、相川の町並みを確認することができます。また、佐渡の交通、とりわけ海上交通に関する情報が多く、岩礁の形や深さ、風向きまでも記されています。指定の絵図は、江戸時代前期の佐渡一国の地理を明らかにするもので、佐渡金銀山を中心とした当時の佐渡の経済状況を考察する史料として重要なものです。

3　答申されたもの

佐渡奉行所跡出土品が重要文化財 美術工芸品・考古資料に、正法寺の建築物６件が登録有形文化財にするよう答申が出ました。（平成 23 年３月 18 日）

文化財（歴史）散歩道「揚浜式製塩用具（北佐渡の漁撈用具）」

両津湾の中心部は、梅津川と久知川が流し出す土砂により夷・湊の砂州が形成されました。また、その周辺部にはかつて広大な砂浜が広がっており、塩づくりが行われていました。時期的には夏場が中心となります。まず、砂浜に海水をまき、天日で蒸発させることを繰り返します。次に浜の表面に固まった砂と塩をかき集め、シオブネ（ろ過装置）にのせます。そこに海水をかけて塩を溶かし、塩水を濃縮する方法で、東日本を中心に行われていた製塩法です。

海水を直接煮詰めても塩はとれますが、大量に必要な燃料の薪を有効に使うため、浜で塩水を濃縮し、一度の塩焚きで多くの塩を生産しました。

江戸時代初期に能登の長兵衛が羽二生の入桑に流れ着き、揚浜式製塩が佐渡に伝わったと言われていますが、能登では現在まで受け継がれています（国指定重要無形民俗文化財）。両津湾沿岸では、住吉・原黒・梅津平沢などが主な生産地で、江戸から明治時代にかけて盛んに塩焚きが行われていました。また、浜で作られた塩の運搬は女性の仕事でしたが、原黒や住吉の浜から国仲・小佐渡方面に塩を運んだ道が、「塩街道」（塩買道）として今に伝えられています。

明治 38 年 (1905) に日露戦争の戦費調達のため、政府により塩が専売制になりました。瀬戸内を中心とした大規模な入浜式製塩が効率的には優位であったため、中世以来続いていた各地の揚浜式製塩は、塩業整理で姿を消しました。佐渡の製塩も明治末年に廃止されましたが、物資の供給が極端に悪かった戦中・戦後にかけて復活した時期があります。

現在私たちが日常食べている食塩は、昭和 47 年頃から「イオン交換膜製法」で製造されている、塩化ナトリウム成分が 100％に近い塩です。平成９年には塩の専売制が廃止になり、各地域で作られた塩が販売されるようになっています。

揚浜式製塩用具（両津郷土博物館）

両津郷土博物館には、製塩関係を含む「北佐渡の漁撈用具」が展示されています。（国指定重要有形民俗文化財）このたび能登と佐渡が世界農業遺産（ジアス）に認定されましたが、有史以前から能登との関係が深い佐渡。この製塩法も両地をつなぐ絆の一つです。

文責：野口 敏樹

塩づくりに挑戦（両尾海岸）

【博物館協議会の動向】

佐渡市博物館協議会では、佐渡市の博物館・資料館の将来像に係る協議を、平成 20 年度以来続けてきましたが、本年３月 30 日に答申が出されました。昭和 30 年代から各市町村で整備されてきた博物館・資料館を整理統合し特徴を持たせながら、観光地に加え、市民の博物館としても利用いただくため、本答申にはそのための運営や事業方針が盛り込まれています。